

認知症サポーターとして“兎守る”

多久高校 健康福祉系列

多久高校健康福祉系列では、授業の一環で認知症サポーター養成講座を受講。生徒たちは実際の場面を想定した劇を作り、良い例と悪い例を演じることで学びを深めます。



こうだい ゆうだい
3年 香田 勇大さん

全てを聞いて
思いを汲み取る

幼い頃から祖父母と過ごす時間が長かったこともあり、以前から高齢者と関わる仕事がしたいと考えていました。

福祉の授業で基礎的なことを学んできたのはもちろん、認知症サポーター養成講座を機にさらに深く認知症のことを知り、現在は介護施設で働くために日々勉強しています。心掛けていたのは、認知症の人の言葉がたとえ誤っていても否定せず、一度受け入れてから対応の仕方を考えること。言葉に隠れた思いがあるので、しっかりと汲み取れるようになりたいです。

一つひとつの言葉を
受け入れて接する

私の祖父は認知症で、症状や接し方を学ぶ前は、祖父とあまり話したくないと思うこともありました。しかし、学んでいくにつれ意識が変わり、今ではどんな言葉も受け入れようと思っています。

大切なのは否定をしないこと。例えば祖父がごはんを食べたのに「食べていない」と言ったら「食べていなかったね」と、祖父の言葉を受け入れます。そうすると祖父も安心してくれます。将来的には祖父以外の認知症の人と関わった時にも、一つひとつを受け入れながら接していきたいです。



やまぐち なな
3年 山口 菜々さん

本人にもご家族にも
寄り添う

認知症サポーターになったのは昨年の秋頃ですが、多久市で50年理美容業を営む中で、自然と認知症の人との関わり方には気を配っていました。

髪を切る約1時間の間でも同じ話を繰り返したり、口調が強くなったりといった変化から、認知症の兆候に気がきます。どのような場合でも寄り添う形で相槌を打ち、聞き役に徹すると安心されるので、とにかく否定せずに受け入れることが重要です。

また、認知症の人のご家族ともよく話します。日々のことなので大変だとおっしゃることも多いです。知識を持った認知症サポーターにこそ話せることもあると思うので、こうした形の手助けも続けていきたいですね。



こが とよみ
古賀 豊美さん



東原庁舎東部校で認知症サポーター養成講座を実施！

これまで認知症の人への接し方が分かりませんでした。が、授業で認知症の人たちの特徴や対応の仕方を学ぶことができました。特に劇での説明は具体的に分かりやすかったです。



おおくら るい
7年 大隈 瑠さん

絵本の読み聞かせや認知症の説明を聞き、たくさんのおじいちゃん、おばあちゃんたちが悲しまないように、今まで以上に優しく接していきます。



ももざき あおと
4年 百崎 蒼空さん

認知症サポーター養成講座を受けてみよう！

身近にいる認知症の人や家族を温かく見守り支援する「認知症サポーター」は、認知症キャラバン・メイトによる講座を受講すれば誰でもなることができます。くわしくは地域包括支援課にご相談ください。

開催 地域や職域団体、市内の学校など。 **講座内容** 認知症の基礎知識、認知症の人への対応方法、家族の支援など。

問 地域包括支援課 ☎75-6033